

視点

今こそ「地域経営」という視点を

株式会社ファーマーズ・フォレスト
代表取締役（中小企業診断士）

松本 謙 氏



私には、弊社の業種を聞かれると困った時期がありました。何故なら、弊社には農業をはじめ、酒類製造、食品加工、小売、卸売、飲食、そして旅館業等の多岐に渡る業種があり、そのどれもが主業であるためその絞込みが難しいという理由があるからです。今でこそ「農業と食、地域資源を結ぶ総合プロデューサー」というキャッチコピーを名刺の上に刷り、6次産業化という時代の流れの後押しがあり、何となく弊社の業態をご理解いただけるようになりました。

単体の企業として外部から見ると、とても広い多角化経営体のように見えますが、私自身の頭の中では「地域経営」という一つの言葉で、その関連性を整理できます。即ち、弊社は地域経営に必要な、生産（ものづくり）→加工（付加価値創造）→販売（地域総合商社）→利用消費（拠点運営、ツーリズム）という自らの一貫プロセスで、地域経済のハブ（結節点）としての機能を担わせていただいていると考えております。

昨今、特に地域の一次産業は、多くの課題（高齢化と担い手不足、耕作放棄地問題等）を抱えながら、不確実性の高い経済の中「6次産業化」や「農業の産業化」などの急激な環境変化に翻弄されている実体があります。現実には、それらの変化に柔軟に対応できる地域の生産者は、まだ数少ないトップランナーとチャレンジャーに限られており、多くが課題を抱えたままで立ち止まった状態にあるといっても過言ではありません。

このような認識の溝を克服するために、今まさに「地域経営」という視点が求められていると考えております。要するに、自力で高付加価値化を目指すことのできない生産者を地域レベルの6次産業化や食農連携で支援し、そこに観光等も巻き込んで、地域に利益還流を起こす継続的な仕組みを構築することで、自走できる強い地域経済を築くことです。

また地域の経済を牽引するトップランナーの成長を支援し、同時にチャレンジャーを次々に輩出できる環境整備を実施して、あらゆる分野で挑戦者を増やし、スピード感のある連携協働で新しいイノベーションと価値連鎖をおこす必要があるとも考えております。

本年4月弊社は、地域の生産者とともに担い手支援事業会社を設立しました。これはまさに弊社の地域経営という視点において、「道の駅という装置が地域全体のインキュベーション（^{ふか}孵化器）機能を果たす」全国初の取り組みです。本県にはフードバレー構想がありますが、栃木県版シリコンバレーともいえる活力が、その名の通りフードチェーン全体の価値連鎖から勢い良く生まれ始めることを強く願っております。

●松本謙氏プロフィール

平成元年慶応義塾大学法学部卒業。大型商業施設等の管理運営の立ち上げ、温泉施設等の再生支援に携わり平成19年(株)ファーマーズ・フォレストを設立。ろまんちっく村や「宮カフェ」の経営など、栃木県の農産物直売や特産品の流通事業を展開。平成24年東京スカイツリー内に栃木県アンテナショップ(官設民営事業)「とちまるショップ」を開業。